

若脾胃虛寒之人強食之則大脫元氣不待風氣而厥倒卒死剩浴湯漏氣彌至不起之廢矣諸本草俱不言性溫直指方曰治一切腫毒癰疽發背及瘡頭黑凹吳瑞曰治小兒丹毒赤腫熱瘡然則不發癰毒者可知焉予常試之人既醉飽後餘食不耐惟食蕎麥切二三碗則下氣推食開胃實腸送舊迎新而可也或曰蕎粉能逐疝故爲治疝第一之藥此亦降氣寬腸煉滯之理若過食發疝者尙可速治而已

〔和漢三才圖會百五造釀〕蕎麥切

多食蕎麥同食西瓜則煩悶有至死者但先西瓜後蕎麥則不害蓋西瓜者水而速下故適合食之難矣蕎粉大黃末二味用能治便毒腫痛此方以爲家秘蓋大瀉下如脾胃虛寒者不可服

又云多食蕎麥浴湯則食傷至死

〔隨意錄七〕方俗河漏麵必用蘿蔔汁宋周密癸辛雜識云今成都麵店中呼蘿蔔爲莢子爾雅曰莢蘿服也蓋其性能消食解麵毒然則非可獨用於蕎麥也

〔奴師勞之〕むかしは蕎麥振舞の跡にはかならず角きりがくの豆腐を味噌に煮て出せしが近頃はなし豆腐は蕎麥の毒をけすといへり

〔南嶺子三〕中柴氏の老人の話に蕎麥麪を饗さんとして客をうけ既に蕎麥糸の如く是を大釜に入れてゆでさするに一すぢものこらずにこり湯ととけて形なしこはいかにとおどろき水をかへて又ゆでさするにそば湯と蕩しゆへ是非なく客方へことはりをたて飯を出し翌日よくあらたむるに其朝荒海布を多くたきたる鍋となり予〇多田此話を耳にたもちそのち六條の人したかそばきりを過食して腹こはぐいたみ甚し予醫人ならずといへ共其席にて見るに忍びず荒海布をせんじさせて用ひければ腹痛たちまちに治したり古人のはじめて薬の能毒を知るもかゝる事なるべし荒海布そばを消の能は諸の本草にも見へず錢を莖葉にまきて嚙はふつくとされ刃物をとうきびのからにて乗チヌをあはせて切ればいかなる梅干も核ともに輪